



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号  
(8月27日～9月16日)

令和4年8月26日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



樹上選果マン

つがるの収穫は適期に！  
良品生産に向け、樹上選果の徹底を!!  
風害防止対策を万全に!!!

## I 概要

8月21日時点の果実肥大は、各品種とも平年並から平年を上回っている。

つがるの熟度は平年より5日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月5日頃からと見込まれる。収穫は地色、着色を見て2～3回くらいに分けて行う。

着色手入れや除袋の際に、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月28～29日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害防止対策をしっかりと行う。

## II りんご生産情報

### 1 果実肥大、着果状況、作業の進み、病害虫の動き

#### (1) 果実肥大

8月21日時点の果実肥大は、各品種とも平年並から平年を上回っている。

○果実肥大 (8月21日現在、横径cm、平年比%)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	8.5	-	7.7
	平年	8.1	-	7.2
	前年	8.3	-	7.4
	平年比	105	-	107
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本年	8.8	-	7.6
	平年	8.1	-	7.0
	前年	8.4	-	7.2
	平年比	109	-	109
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	8.5	8.1	7.2
	平年	8.4	7.7	7.2
	前年	8.5	7.6	6.9
	平年比	101	105	100
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	8.3	-	7.5
	平年	8.2	-	7.2
	前年	7.9	-	7.3
	平年比	101	-	104
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	8.9	8.1	7.3
	平年	8.2	7.7	7.0
	前年	9.0	7.7	7.1
	平年比	109	105	104

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

#### (2) つがるの果実熟度

8月26日現在の熟度は、黒石では平年と比較して、着色指数は同程度、ヨード反応はやや低く、硬度、糖度及び酸度は低い。総合的に見て、熟度の進みは平年より進んでいる。

○つがるの熟度の進み (調査月日：8月26日)

地域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポイント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒石 (りんご研究所)	本年	276	0.7	14.5	10.4	0.273	4.1
	平年	250	0.8	15.3	11.4	0.292	4.4
	前年	259	0.7	14.6	13.6	0.297	3.9

注1 調査系統：普通系

2 平年：2001年～2020年の20か年平均

3 落果防止剤（ストッポール液剤）散布日：8月15日

3 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

4 ヨード反応：ヨードデンプン反応指数0～5  
(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み（8月24日現在）

徒長枝整理、支柱入れ、着色管理、早生種の収穫が行われている。

2 作業の重点

(1) つがるの収穫

熟度は平年より5日程度進んでいることから、収穫始めは黒石で9月5日頃から見込まれる。収穫は地色、着色を見て2～3回くらいに分けて行う。

収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。

山選果に当たっては、変形果や日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。山選果で取り除いた果実は加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油上がりなど品質の劣化が早くなるため、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

つがるの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
13～16ポンド	12%以上	3.5以下	3.5以上

注) 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 樹上選果

ふじ、王林などで着果量の多い樹がまだ見られる。着色手入れや除袋の際に、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等の摘み取りを徹底する。

(3) 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月28～29日頃に実施する。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

シンクイムシ類の産卵が続いているので、防除剤も使用する。

「8月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	8月28～29日頃	アリエッティC水和剤 又はダイパワー水和剤 又はベフラン液剤25	800倍 1,000倍 1,500倍

炭疽病の発生の多い園地で、ベフラン液剤25を選択した場合は、オーソサイド水和剤80の800倍も散布する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(4) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシラン水和剤1,000倍も使用する。  
ポリオキシシラン水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(5) 「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

すす斑病・すす点病の発生が例年多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に特別散布を行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「9月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤	800倍 1,500倍 5000

(6) 腐らん病対策

降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながるため、胴腐らの治療部を再点検し、病斑の進展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。胴腐らの発病が著しい樹は、積極的に伐採し、速やかに園外へ搬出する。

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

(7) 黒星病対策

被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(8) 炭疽病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(9) ハダニ類対策

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上を目安に散布する。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）を散布した後は使用しない。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	倍数	使用時期	年間 使用回数	リンゴ ハダニ	ナミ ハダニ
サンマイト水和剤	1,500倍	収穫21日前	1回	○	×
バロックフロアブル	2,000倍	14日	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	2,000倍	7日	1回	○	○
オマイト水和剤	750倍	3日	1回	○	○
コロマイト乳剤	1,000倍	前日	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日	2回	○	×
スターマイトフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	2,000倍	前日	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(10) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、9月以降も防除剤を使用する。

(11) リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多い園地では、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して、適期にジアミド剤又はスピノシン剤のいずれかを散布する。

発生が多い場合はなるべく早めに果実に接触している葉を摘み取り、果実被害の軽減に努める。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表

薬剤名		倍数	使用時期	年間使用回数
ジアミド剤	サムコルフロアブル10	5,000倍	前日	3回
	エクシレルSE	5,000倍	前日	3回
	テッパン液剤	2,000倍	前日	2回
	フェニックスフロアブル	4,000倍	前日	2回
	ヨーバルフロアブル	10,000倍	前日	2回
スピノシン剤	ディアナWDG	10,000倍	前日	2回
	デリゲートWDG	10,000倍	前日	2回

(12) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(13) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじで9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）で9月20日頃から行う。

早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。

摘葉剤ジョンカラプロを使用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(14) ジョナゴールドの除袋

除袋は9月15日頃～25日頃にかけて行う。

着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

日焼けを発生させないため、二重袋の内袋をはぐ時は、曇天か晴天の日中（10時～14時）に行う。

(15) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部に十分日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝吊りを行う。黄色品種でも行い品質向上に努める。

日焼け果の発生防止のため、高温が続くと予想される場合は、徒長枝の整理や支柱入れ等の作業は控える。

(16) 大雨に対する事後対策

山手や傾斜地では、地盤が緩んでいる恐れがあるため、注意して作業を行う。園地の土が乾燥したら、できるだけ耕起し、通気性及び透水性を良くする。水に浸かった果実は区別して収穫する。

(17) 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(18) ひょう害対策

被害が見られた場合でも、生食での販売が可能な果実については通常どおりの管理を継続する。

(19) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

## (20) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいので、カルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

### カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

## (21) 土壌乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

## 3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 苦土欠乏対策

## 4 今後の作業（9月17日～10月5日）

- (1) 中生種の収穫 (2) 中・晩生種の着色手入れ (3) 樹上選果  
(4) 病害虫対策 (5) 風害防止対策 (6) 鳥害防止対策 (7) 草刈り  
(8) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

### 《りんご研究所参観デーのお知らせ》

黒石会場（りんご研究所）：9月6日と7日 9時～15時

五戸会場（りんご研究所県南果樹部）：9月15日 9時～15時

※台風などの天候条件や新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止する場合があります。

※新型コロナウイルス感染症対策として、入場時に氏名と連絡先の記入と検温（37.5度以上は入場をお断りします）、マスクの着用をお願いします。

### 《「あおり9」の生果実流通》

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和7年10月27日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/index/index.html>

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されたので、令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えをお願いします。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。(青色申告の実施が要件)

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 農作業安全を心がけましょう 》

機械を使って作業を行う際は、焦らず、急がず、慎重に、を基本に事故のないよう十分注意しましょう。はしごの上で作業する時は、足場がしっかり安定しているか確認するとともに、天板の上には乗らないようにしましょう。園地に出かける際は、携帯電話を必ず持参し、家族などに行き先や帰宅時間を伝えてから出かけるようにしましょう。

《 令和4年8月3日からの大雨に係る被害の記録整備 》

洪水等の被害を受け、今後、支援を受ける場合には、写真(被災状況、作業状況、作業後の状況)、出役簿(作業記録)、領収書等が必要となりますので、忘れずに記録、保管しましょう。

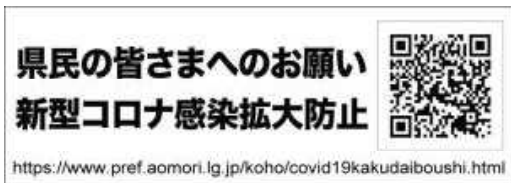


---

農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅に飛散させないようにしましょう  
熱中症予防には、こまめな休憩と水分の補給をしっかりと行いましょう！

---

次回の発行は令和4年9月16日（金）の予定です。



連絡先：りんご果樹課生産振興グループ  
電話番号：017-722-1111代表  
内線5093、5094  
017-734-9492直通